

公益
社団
法人

日本麻酔科学会

NEWS LETTER

2019

vol. 27 no.4



European Society of Anaesthesiology および American Society of Anesthesiologists との Memorandum of Understanding 締結について

国際交流委員会 委員長 大嶽 浩司

去る6月2日、Euroanaesthesia 2019が行われていたViennaにて、European Society of Anaesthesiology (以下、ESA)と日本麻酔科学会(以下、日麻)との間でMemorandum of Understanding (以下、MOU)が締結されました。このMOUは、1)両学会間の学術および教育交



ESA との MOU 締結。ESA President Dr Stefan De Hert, Vice President Dr Kai Zacharowski、小坂橋理事長と共に

流を確立すること、2)それぞれの学術集会にお互いに参加しあうことを目的としています。詳しい内容は6項目にわたり、2021年まで、双方の学術集会にて2名以上の演者あるいは座長を招き合うこと、招待側は登録費を無料にする代わりに派遣側が渡航費用を負担すること、将来の学術集会の日程が被らないように情報交換をすることなどが定められました。これに基づいて次回の日麻の学術集会ではESAからDr. Marcelo Gama de Abreuにご講演をいただくことになっています。さらに、e-Learningやガイドライン、臨床研究などで連携を強化することを確認しました。

また、10月19日にはOrlandoにてAmerican Society of Anesthesiologists (以下、ASA)と日麻との間でMOUが締結されました。こちらでは、2020年から2022年の学術集会で演者を相互派遣(最大2名)すること、展示会場で双方の学会のブースを出すこと、ニューズレターやWEBなどでお互いの学術集会を紹介し合うことが定められました。

現在は、このようにMOUなどを締結して国際的な学術連携をより強化していくことが世界の潮流となっています。国際交流委員会では、引き続き学会員の皆様が海外で活躍しやすくするために舞台を整えて参りますので、価値のある研究はぜひ海外でもご発表いただき、日本のプレゼンスの向上にご協力をよろしくお願いいたします。

日本麻酔科学会第67回学術集会開催のご案内

日本麻酔科学会第67回学術集会の開催にあたって

日本麻酔科学会第67回年次学術集会会長を務めます慶應義塾大学医学部麻酔学教室の森崎浩です。年次学術集会を開催させて頂くにあたりご挨拶申し上げます。

第67回年次学術集会は2020年6月4日(木曜)～6日(土曜)の3日間、神戸での開催を予定しています。申し上げるまでもなく、2020年は東京オリンピック・パラリンピック開催年となり、スポーツを通じた国際交流が全国各地において盛り上がるものと存じます。世界最高レベルのスポーツを目の当たりにして、我々が素晴らしいと感じる想像を超える“技”“精神力”あるいは“チームプレー”は必ずしもスポーツに限定されたものではありません。専門職として日頃の研鑽を通じ、より質の高い医療を提供している麻酔科医にとっても極めて重要な3要素であると考えています。日常診療においては、金・銀・銅のメダルや順位を競う必要はないものの、我々麻酔科医も学術集会という研鑽の場において、これらの素養を研ぎ澄ます必要があることには違いありません。

本学術集会のテーマを『近未来社会における麻酔科学 (Anesthesiology in Futuristic Society)』とさせて頂きました。昨今、関連領域医学や工学を含む周辺領域の著しい発展に伴う手術適応年齢の高齢化が一段と進み、全身麻酔を必要とする手術件数は増加し続けています。また医の根源でもあ

る慢性痛の治療を必要とする患者数増加やより高度な集中治療による急性期重症患者の救命率向上等、我が国の麻酔科医が果たすべき役割は一段と拡大し、留まる様相を見せていません。一方、人工知能(Artificial Intelligence)が人間の知能を超える転換点シンギュラリティとその後の世界の変化に対し、大きな期待と不安が世間では渦巻き始めています。医療界においてもビッグデータ解析や画像診断等に加え、例えば人工知能を搭載する全脳型あるいは特化型ロボット等の技術革新を“より安心して”“より安全に”麻酔科医が担う医療に展開することも、日本麻酔科学会として真剣に取り組むべき時期に来ていると考えています。

現在、学術集会実行委員会において会員の皆様のご期待に応える企画を各領域で吟味し、年次学術集会の開催に向け鋭意準備を進めているところです。日常業務に多忙な日々をお過ごしのことと存じますが、来る2020年6月4日より3日間は神戸に集い、本学術集会での議論を通じて麻酔科医としての素養を大いに研ぎ澄まして頂ける機会となるよう祈念しています。

多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。



第67回学術集会 会長

森崎 浩

(慶應義塾大学医学部麻酔学 教授)

学術委員会から学術集会発表および参加に関する大切なお知らせです

年次学術集会一般演題発表および参加に関して以下をよくご確認ください。

演題募集・発表に関する注意事項

研究や学術集会発表、論文投稿等を進めるうえで、所定の申請や施設の倫理承認を取得する、ガイドラインに則った対応を行うなど、本学会演題投稿時に記載・紹介しております規定は会員の皆様に十分に理解頂く必要があります、その重要性は高まっております。

同様に、学術集会発表においても昨今の社会情勢を鑑み、個人を特定する情報は原則使用せず、取り扱う場合には細心の注意が必要です。個人を特定する情報を講演により公開される場合は、その内容や受け取り手によっては名誉毀損や損害賠償といった訴訟問題に発展するリスクも多分にごございますため、十分にご注意下さい。

学術集会参加における

身分証明書(顔写真付)の必須化について

過去に明らかな代理出席が発生したことにより、参加受付で運転免許証や病院職員証など顔写真がある証明書の提示を求めることを必須と

しております。同様の不正が発覚した場合は代理出席をした会員、依頼した会員両者とも懲罰対象となることが決定しております。

学術集会に関する諸情報について、後日学会ホームページとプログラム集に公開する「参加者案内」を十分にご確認の上、学術集会に参加してください。

日本専門医機構認定(専門医共通・麻酔科領域)

講習会参加について

事前予約者および当日受付にて受講料を支払った者のみが参加可能であり、所定の講演時間(講演開始～終了まで)の受講、こちらを証明する入室・退室記録が必要です。時間外(講義中)の入室、退室があった場合、入室・退室記録がない場合は一切単位付与が認められません。より多くの会員の受講機会提供、混雑緩和に努めておりますが、受講にあたってはその他の発表予定、参加予定セッションおよび会場間移動等についてはご自身で勘案し、多くの方が受講でき、無断キャンセルがないように、参加計画の検討をお願いします。

2019年度支部学術集会開催参加者報告

日程	学術集会名	会場	会長	参加受付数総計	前年比 (参加受付数)
2019年 9月14日	北海道・東北支部 第9回学術集会	仙台国際センター	川前 金幸	446	120.2%
2019年 9月7日	関東甲信越・東京支部 第59回 合同学術集会	京王プラザホテル 新宿	小森 万希子	1,499	97.5%
2019年 9月7日	東海・北陸支部 第17回学術集会	名古屋 コンベンションセンター	藤原 祥裕	566	137.4%
2019年 9月14日	第65回 関西支部学術集会	大阪国際会議場	上山 博史	1,059	97.3%
2019年 9月7日	中国・四国支部 第56回学術集会	くにびきメッセ	齊藤 洋司	269	90.0%
2019年 9月14日	九州麻酔科学会 第57回大会	アクロス福岡	山浦 健	748	173.5%

2019年度 支部学会賞(最優秀演題)

支部	領域	タイトル	演者氏名	所属
北海道・東北	麻酔科関連(基礎)	ラット術後悪心嘔吐モデルにおけるデクスメトミジンの効果	杉野 繁一	東北大学麻酔科
東京	麻酔全般(臨床)	ロボット手術は、環境基準を超える二酸化炭素に暴露する危険がある	濱崎 えり	杏林大学医学部附属病院
関東甲信越	麻酔科関連(臨床)	麻酔科医が主導し新たに開設した『術前ダイエットセンター』の概要と成果	柴田 正幸	前橋赤十字病院
東海・北陸	小児・産科	劇症分娩型A群溶血性レンサ球菌感染症による敗血症性ショック妊婦の帝王切開術の麻酔経験	川津 佑太	名古屋第二赤十字病院
関西	循環(臨床)	肺動脈カテーテルは三尖弁のどの部位を通過しているのか	高田 祥子	桜橋渡辺病院
中国・四国	神経(臨床)	デスフルランとプロポフォールが術中誘発電位モニタリングに与える影響-文献検索とメタアナリシス	勝又 祥文	高知大学医学部附属病院
九州	呼吸(臨床)	気管支鏡による選択的気管支送気法を用いた肺区域切除術	田邊 光和子	浜の町病院

2020年度支部学術集会開催予定

会期	会議名	会場	会長	所属
2020年9月5日(土)	北海道・東北支部第10回学術集会	札幌医科大学 教育研究棟1	山蔭 道明	札幌医科大学医学部麻酔科学講座
2020年10月24日(土)	関東甲信越・東京支部 第60回合同学術集会	幕張メッセ国際会議場	磯野 史朗	千葉大学大学院医学研究院 麻酔科学
2020年9月12日(土)	東海・北陸支部第18回学術集会	アクトシティ浜松コンgresセンター	白石 義人	市立島田市民病院 麻酔科
2020年9月5日(土)	第66回関西支部学術集会	大阪国際交流センター	佐和 貞治	京都府立医科大学麻酔科学教室教授
2020年9月5日(土)	中国・四国支部第57回学術集会	サンポートホール高松	白神 豪太郎	香川大学医学部附属病院 麻酔・ペインクリニック
2020年9月12日(土)	九州麻酔科学会第58回大会	長崎ブリックホール	原 哲也	長崎大学医学部麻酔学教室

JA・JACR査読員公募について

学術委員会 機関誌専門部会

Journal of Anesthesia (以下JA)は日本麻酔科学会の英文機関誌として年6号発行しております。

1987年創刊、2003年Medline収録、2007年WEB of Science収録、2009年Impact Factor取得の歴史があります。2008年から電子投稿・査読システム(Editorial Manager)を採用しています。

JA Clinical Reports(JACR)は、症例報告を対象としたオープンジャーナルであり、Journal of Anesthesia(JA)に次ぐ日本麻酔科会の機関誌です。日本麻酔科学会の会員であれば投稿料が無料となっております。

日本専門医機構認定専門医更新について、機関誌の査読は1査読につき日本専門医機構1単位が加算されることとなっており、これを機に、JA/JACRのオンライン査読者を会員の皆様に常時公募いたしております。

査読は1年間5-10回程度、査読システムを利用して行ないます。システムで校閲して頂き、初回は3週間(再投稿時は2週間)の期限内にシス

テムへ英文で結果の入力が求められます。査読内容は、編集委員が精査して毎回採点をしますので、編集委員会で大きな問題があると判断した場合は、外れて頂くこともあります。また、査読を断る頻度が高い場合も同様に外れて頂く場合があります。

皆様の多くのご応募をお待ちしております。

※応募いただいた方につきましては、専門分野等を考慮し審査後、選任することになりますので、略歴以外に、過去5年分の英文論文と、英文論文査読歴のご提出が必要となります。選考後、査読者に決定した方には、査読の手順についてもご案内いたします。

応募はマイページの機関誌ページよりお申込み下さい。

【機関誌等_エディトリアルボードからのお知らせ】

<https://nsas.anesth.or.jp/App/Datura/index.html?c1=journal&c2=public>

真夏の社会保険部会奮闘記

総務委員会 社会保険部会

山本 俊介 (大阪大学大学院医学系研究科
麻酔・集中治療医学教室)

今年度より総務委員会社会保険部会員となった私は、朝から30度を超える猛暑の2019年8月2日、2020年度診療報酬改定に関する厚生労働省ヒアリングに先輩部会員と共に出席してきました。このヒアリングでは外科系学会社会保険委員会連合(外保連)を通じ前年11月までに提出した医療技術評価提案書のうち2項目の直接説明が可能で、日本麻酔科学会は「麻酔管理料Iの長時間麻酔管理加算の対象手術(Kコード)拡大」と「麻酔管理料IIの算定要件の明確化」を選択しました。ちなみにこれらの提案には新たなエビデンスやガイドライン等に加え、外保連試案掲載も必要とされているようです。

当日は、厚生労働省保険局医療課の課長補佐2名に対し、提案項目を各5分で説明したのち質疑応答15分の計25分間で行われました。担当課長補佐のうち1名は麻酔科診療領域に比較的精通した医系技官と感じました。1件目の対象手術の拡大では胸腔鏡補助下食道悪性腫瘍手術(3領域)、冠動脈バイパス術(2吻合以上)、肝切除術(2区域切除)の3術式が2018年度長時間麻酔加算対象から漏れたため、改めて加算対象への追加を提案しました。2件目は麻酔管理料IIの留意通知における『麻酔を担当する医師』の解釈を『当該患者に対して麻酔を施行する医師』ではなく、『主として麻酔に従事する医師』を意味するものへの変

更または明確化を提案しています。医療課からは、1件目の対象手術が漏れた経緯について、2件目では同一の医師1人よりもチームで対応した場合に質が向上するとのエビデンスの有無等についての質問がありました。

これに対し、麻酔管理料Iの長時間麻酔算定では今回の対象術式より難易度の低いものと高いもの双方が認定されている矛盾があることや外科系関連学会からも強い要望があること、麻酔管理料IIの算定要件ではエビデンスは後日提出すると共に、昨今の医師働き方改革やチーム医療重視の点から、同一医師が週末等を含む3日間に渡り拘束される算定要件は時代に逆行する等と説明しました。先輩部会員からの“当日の外気温よりもあつい説明と主張”により、少なくとも『何が現場で混乱し、是正を求めているか』は医療課と共有できたと感じたところです。勿論、これらの提案が最終的に承認されるかは不明ですが、今回のヒアリングを基に医療課内ならびに中央社会保険医療協議会で審議され、年末には判明する見込みです。

社会保険部会では既に2022年度改定に向けた検討を開始しています。日々進歩する麻酔科診療に見合う診療報酬に近づけるよう、学会員の皆様には臨床研究等を通じて更なるエビデンスの蓄積ならびに建設的なご意見を是非お願いいたします。



麻酔機器・器具故障 不具合情報について

安全委員会 委員長 廣田 和美

本学会は、医療の安全性向上のため、麻酔関連機器の故障情報の収集と迅速な警告発信を行っております。2019年7月から10月までに、HPに掲載された注意情報は下記の通りです。

情報は以下のページに随時掲載しておりますので、会員の皆様におかれましては常時ご確認いただきますようお願い申し上げます。また、同様の事象が発生しましたら anzen@anesth.or.jp までご連絡下さい。

<故障情報掲載ページ>

https://anesth.or.jp/users/person/safety_initiatives/heads_up

日本麻酔科学会トップページ→医療関係者の皆様→麻酔機器・器具故障情報、薬剤情報、注意喚起

GEヘルスケア・ジャパン社 Aisysで発生したエラーメッセージについて

製品名

麻酔システム エイシス 使用年数 5年 (耐用年数 7年)

事象

2019年5月29日、麻酔システム「エイシス」で麻酔中に、麻酔器が突然気化器を認識しなくなり(画面上の気化器の数値欄が空白になり)、「気化器エラー」のエラーメッセージとアラームが発生した。

部品交換修理を実施し、不良症状は改善した。しかしながら、2019年6月4日に再び同様のエラーが発生し、再度修理を行った。現在、同麻酔器を使用して経過観察中。

エラー発生時の対応のお願い

「気化器エラー」のメッセージ表示とアラームが発生した場合は、麻酔の方法を変更して頂くか、別の気化器を選択してください。また、エラーメッセージが発生している間は、気化器の機能は停止し、麻酔薬の供給が停止しておりますので、エラーメッセージが解消されない場合は、ご使用を中止して、弊社担当サービスまでご連絡ください。

エラーメッセージへの対応に関しましては、Aisysユーザーズリファレンスマニュアルの「7 アラームとトラブルシューティング」を参照してください。

詳細は<故障情報掲載ページ>より、報告書をご確認ください。

ドレーゲル社

吸入麻酔薬用気化器の麻酔器への取り付けに関して

製品名

ドレーゲル製全身麻酔装置用吸入麻酔薬用気化器

事象

リーク等が発生し、フレッシュガスの濃度低下などが発生する恐れ

対応

正しく接続されなかった場合や、外部から強い力が加わると起こりうる事象のため、確実な接続を実施し、注意事項と合わせてご確認ください。

詳細は<故障情報掲載ページ>より、報告書をご確認ください。

GEヘルスケア・ジャパン社 TEC6プラス気化器デスフルランの不良発生

製品名

GEヘルスケア・ジャパン社 TEC6プラス気化器デスフルラン 使用年数3年 (耐用年数7年)

事象

TEC6プラス気化器デスフルランを使用し、低流量麻酔中に「NO OUTPUT」のインジケータが点灯しアラームが鳴った。ガスモニター上、EtDes 24%、FIO2 18%が表示され、薬液量を示すバーが急速に低下した。デスフルラン投与を中止しセボフルランに変更した。その後、「NO OUTPUT」の点灯が消えたため再投与したところ、同様の事象が起きた。

原因

メーカーによる調査の結果、気化器の濃度設定ダイヤル回転弁の擦り合わせ部分全体に損傷があり、そのために麻酔ガスとフレッシュガスの流量調整に異常をきたしたと判明した。同様の事例は他施設からも報告されている。

対応

1. 損傷の発生防止
使用にあたり以下の点に留意する。
 - ・ダイヤル操作はゆっくりと回す
 - ・気化器の取り外しや移動をする場合、ダイヤル部分を持たずに行う
 - ・使用中は麻酔ガス濃度のモニタリングする(取扱説明書 1-3参照)
2. 「NO OUTPUT」アラーム発生時
使用中「NO OUTPUT」アラームが発生した場合は、気化器ダイヤルをOFFの位置まで回し、以下の対応を行う。
 - ・麻酔剤レベルが20mL未満まで低下 → 麻酔剤を補充する
 - ・電源障害が発生して10秒経過 → 電源ケーブルの接続を確認する
 以上の対応をしても「NO OUTPUT」アラームが止まらない場合は使用を中止する。

詳細は<故障情報掲載ページ>より、報告書をご確認ください。

(2019年8月23日)

本件以外にも、複数の施設で同様の事例が発生しています。使用中にこのような事象が生じた際は、まずは気化器をOFFにして、患者が安全な状態を維持できる吸入気と代替えの麻酔手段を考慮してください。

安全委員会 麻酔機器・麻酔手技安全対策専門



北から南から

患者の身になって

千葉大学麻酔疼痛緩和医療科 村松 隆宏

かつて私は病気を治すのは、医者ではなく薬だと思っていた。その思いから薬学部に進学したが、私の進学した薬学部では、ターゲットとなるタンパク質を決め、その異常によりおこる病気を探すという流れが通常だった。しかし、動機が違ふと私は感じた。

薬学部を卒業し、修士課程に進むとその違和感は強くなり、私は医学部に入りなおした。

医学部5年生の耳鼻科実習で全員が甲状腺エコーの実習があった。そこで私の甲状腺には両側の低エコー域があった。細胞診で乳頭癌の診断となり、甲状腺全摘術をうけた。実際に麻酔を受けて記憶にあるのは、ひどいPONVである。28歳の車酔いしやすい男性にセボフルランで麻酔してはいけないと自分の身を通して学んだ。

気管傍リンパ節郭清も施行したこともあり、術後に左反回神経麻痺となった。病院食のおかゆがあまりに美味しくなかったのも、駄々をこねて通常食にしてもらった見事に誤嚥した。わがままは言うてはいけない。医者の言うことは聞くべきだ。数か月程度で反回神経麻痺は完治したが、その間声帯は正中位固定だったので、嗄声はなかったが最大吸気でstriderが出ることを発見し、気道の重要性を認識した。

アブレーションを行う際に甲状腺ホルモンの内服を1か月辞めたことがある。自分では全く気付かないが、表情が暗く、歩くのが遅くなっていったらしい。体の機能を正常に保つことの重要性を認識した。

私は医学部に入りなおしていなければ、もっと進行した甲状腺癌が反回神経まで浸潤し、嗄声となった時点で気づかれるか、多発肺転移を健康診断のレントゲンで指摘されるまで気づかれることはなかっただろう。人生は不思議な巡りあわせの上に成り立っているものだ。今私は医者9年目であるが、イコール術後年数でもある。現在再発所見はなく、もうすぐ10年になる。

これからも患者の身だったことを忘れずに麻酔科医として一歩ずつ成長していきたい。

かつての私は間違っていた。病気を治すのは、やはり医者である。

地域の祭りと誇り

佐賀大学病院麻酔科蘇生科 坂口 嘉郎

佐賀では11月上旬に「唐津くんち」と「佐賀バルーンフェスタ」という、地域を代表するイベントが行われる。例年学会の日程と重なることが多く、これまでゆっくり見ることがなかったが、今年は都合よくスケジュールが空いたため、両者とも堪能することができた。

唐津くんちはユネスコ無形文化遺産に登録される唐津神社の秋季例大祭である。獅子や鯛、兜などをかたどった14台の豪華絢爛な曳山が御神幸を目的に城下町を巡る。私は今回、夜間、飾り提灯に幻想的に彩られながら山が曳かれる様子を直近に見て、町の世話役の宴席にお邪魔させていただいた。町中が祭り一色に盛り上がる熱気に包まれ酔いしれた。

翌朝は佐賀インターナショナルバルーンフェスタを見に行つた。このイベントは佐賀市の嘉瀬川河川敷を中心に開かれる。40年目となる今年

の大会には17の国と地域から123機のバルーンが参加し、観客数は5日間で92万8千人に及んだらしい。佐賀の空は視界を遮る高い建物が少なく、小ぶりの街の周りには田畑の平野が広がっている。上空には複雑な風が吹くので熱気球競技には最適らしい。早朝の凜とした大気の中を色取り取りの熱気球がプカプカと浮かんでいるのを眺めるだけで、心が伸びやかになる。気球は上昇下降の操作しかできないにも関わらず、流れる風を上手に捉えて目標地点に到達する様子を見ていると、その技能に驚嘆させられる。

祭りはいいものだ。この時ばかりは日常生活の場が晴れ舞台となり、煌びやかな出し物と着飾った人々で溢れかえる特別な空間に変身する。祭りには生きる力、希望、感謝、連帯など内底から湧き出すエネルギーが漲っている。外から訪れる多くの人々も、そんな雰囲気飲み込まれ、同じ伝統文化でつながっている感動を共有することができるのである。

佐賀に赴任して9年目となる。この土地に暮らすことの誇りを感じる嬉しい機会となった。

「教育」を通じて感じること

岡山大学病院麻酔科蘇生科 清水 一好

多くの選択肢が示される一方で、情報に溢れ、目の前にある事が際立ちすぎることが増え、求めれば手軽に情報が手に入り、自分の能力や努力とは異なる次元で物事が解決する事も増えた気がする。医療業界も平等性という考えが重視されるようになってきた。平等性は与えられた権利を有効に活用でき、多様性につながれば発展につながる。しかし、その権利をどう行使し、得られた事をどう処理するかの判断には、自分の成熟度がカギとなる。目に見えることの是非を判断し、どう扱うかは考え次第で、それらは環境や教育により異なる。

教えられる側には謙虚さや素直さが必要である。自分よりも経験を積んだ人と同じ時間を同じように過ごしても成長はない。権利意識が強過ぎると、通るべき道筋の順番がずれてしまうこともある。勿論自分を取り巻く環境の質は重要ではあるが、技術の向上と維持のためには個人の努力は必須であろう。全体の中での自分の立ち位置がどうか、何を望まれているか、人からどう見られているか、などの組織内での個のあり方も重要だと思う。

一方で、教える側には後身を導く愛情や信念が求められる。教育を受ける側はまだ未熟で、理解出来ないが故にしてしまうミスがある。然るべき方法で然るべき内容を正しく指導しなければならない。背中を見せるだけでは伝わらないことも多く、実感無くして習得はなく、習得無くして成長はない。受け手には未熟である事を認識させ、謙虚に教わる姿勢を持たせること、学習目標を具体的に示し、基本から反復して教え、実践させ、多角的にみせることも必要になる。

相互信頼が成立しなければ教育は体をなさない。組織を秩序立てる「精神論」「信念」などは目に見えない。それ故に、教育を受ける者が育った環境で自然に作法が身につく、それを基盤に多様性をもってよりよい方向にステップアップしていけるシステムを作る努力をしなければ、としみじみ思う。

2019年度の年会費をお支払ください

2019年度年会費の支払締切日(2019年9月30日(月))が過ぎております。まだお支払でない方は、至急お支払ください。

会員サイトメニュー「プロフィール」内、左側メニューボタン「年会費支払照会」より画面に従ってお手続き下さい。

お支払い情報のマイページ反映には、2.3日お時間頂く場合がございますのであらかじめご了承ください。

2019年度かつ前年度の2018年度年会費未納の方へ -ご周知ください-

●2019年9月30日に2018年度年会費に未納があった方は、「学会の発行する会員向けの印刷物及び電子的情報の配布を受ける権利」「学会認定医、学会専門医、機構専門医、学会指導医等の資格の申請をする権利」を停止させていただきます。2年度分を完納いただければ権利は復活します。

●2020年3月31日に2018年度年会費に未納がある方は、2020年3月31日時点で退会となります。

再度会員になる場合は入会の手続きを行っていただく必要があります。ただし再入会時に従前の専門医等の認定資格は復活せず、再度取得となりますのでご注意ください。

領収書について

会員サイトメニュー「プロフィール」内、左側メニューボタン「領収書発行」より画面に従って出力下さい。(1回のみ出力可能です)

会員(IC)カード発行について

会員(IC)カードは、年次学術集会(毎年5月もしくは6月)・支部学術集会(毎年9月)に間に合うように発行しております。会員(IC)カードは年次学術集会、支部学術集会での参加登録(チェックイン・会期中に1回必須)、単位を取得される講習の入退室に必要です。紛失された方は会員サイトメニュー「プロフィール」内、左側メニューボタン「カード再発行申請」からお手続きを行ってください。

他学会の学術集会で麻酔科領域講習、共通講習受講のため、仮会員カードを臨時で発行される場合には、会場内に設けております、仮カード発行ブースで有料発行のうえ、ご参加ください。会期終了後に返却をお願いいたします。

※会期中に返却された場合、再発行には、再度発行代金をお支払いいただくこととなりますのでご注意ください。

入会について-ご周知下さい-

毎月10日を期日とし、入会申請を受け付けております。入会申請には、①WEB申込及び②書類の提出が必要となっており、①・②どちらも完了している方を対象に入会審査を進めております。審査後、同月15日付けで入会承認結果を申請者にメールで通知いたします。承認された方はメー

ルに記載されたURLから、期日までにクレジット決済で年会費を入金して頂くことになり、入金完了時点で会員となります。

※入会スケジュールは、変更となる場合がございます。詳細につきましては、弊会HP「入退会案内・会員情報更新・会員カードについて」をご確認ください。

※一旦退会後、再度会員になる際も前述の手続きで入会申込を行って下さい。直近の退会時点で未納年会費がある場合、こちらと合わせて入会年度の年会費をお支払い頂き、再入会となります。ただし、専門医等の認定資格は再入会しても復活しません。再入会と新入会の申請ページは異なりますので、ご確認いただいた上でご申請をお願いいたします。

※学術集會中の入会受付は行っておりません。

国内名誉会員推薦受付開始時期について

2019年度名誉会員の推薦受付を下記の通り予定しております。推薦方法等の詳細につきましては、学会ホームページに掲載後、日本麻酔科学会代議員の皆様に掲載した旨、ご連絡致しますので、ご確認とご周知の程、宜しくお願いします。

推薦受付期間

2020年1月7日(火)～
2020年2月3日(月) (17時事務局書類必着)

訃報連絡

2018年11月～2019年10月にご逝去の届出がございました名誉会員、会員は下記の通りです。謹んでお悔やみ申し上げます。

※名誉会員、代議員経験者のみ

○石井 奏 先生 (名誉会員)	2018年12月7日
○武下 浩 先生 (名誉会員)	2019年1月18日
○藤田 達士 先生 (名誉会員)	2019年1月31日
○新井 豊久 先生 (名誉会員)	2019年6月10日
○天羽 敬祐 先生 (名誉会員)	2019年6月19日
○奥田 佳朗 先生 (名誉会員)	2019年7月 7日
○岡本 健 先生 (支部名誉会員)	2019年3月18日
○山田 達也 先生 (会 員)	2018年6月19日

編集後記

激甚災害に指定された九州北部豪雨、台風15号、台風19号の被災者の皆様にお見舞い申し上げますとともに、災害復興に尽力されている方々の安全とご活躍をお祈りいたします。神経麻酔分野(脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔、神経ブロック)の誤接続防止を目的とした国際規格コネクタを採用した製品への切り替えが、いよいよ待たなとなりました。神経ブロック針を使用する他診療科と情報を共有しながら、麻酔科主導で円滑に導入できるよう調整を進めて行く必要があります。HPトップページに「誤接続防止コネクタの国内導入について」のバナーを設置しておりますので参考になさってください。本年度が初回となる日本専門医機構認定麻酔科専門医および新制度の学会指導医・認定医の認定申請の受付も終わりました。制度の見直しが直前まで相次ぎ、戸惑われた方も多かったことと思います。認定制度に限らず、会員の皆様が必要とされる情報については、広報委員会から関連委員会に働きかけるなどして、HPを通して少しでも分かりやすいご案内ができるよう努めて参ります。(広報委員会 副委員長 水野 圭一郎)

◆編集・発行 (公社)日本麻酔科学会 広報委員会

[広報委員長] 川口 昌彦
[広報副委員長] 水野 圭一郎
[広報委員] 讃岐 美智義、渋谷 博美、鈴木 昭広、角倉 弘行
〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町1丁目5番2号
神戸キメックセンタービル3階
TEL: (代表) 078-306-5945
(認定関連問合せ専用ダイヤル) 078-335-6078
FAX: 078-306-5946

◆制作 株式会社杏林舎
〒114-0024 東京都北区西ヶ原3-46-10
TEL: 03-3910-4311 FAX: 03-3949-0230

公益社団法人 日本麻酔科学会 NEWS LETTER

2019 Vol.27 no.4
http://www.anesth.or.jp
2019年12月20日発行
©Japanese Society of Anesthesiologists

本誌掲載記事の著作権は全て(公社)日本麻酔科学会に帰属いたします。
無断複製・転載を禁じます。